

## ビバハウス便り No.103 新しい望みの春をめざして！

2015年1月20日 ビバハウス 責任者 安達 俊子

明けましておめでとうございます。遅ればせながらですが、本年もどうぞよろしく願いいたします。羊のように、生きたいように生きながら、結果として何か世の中のお役にも立てるような1年になる事を願っています。

昨年12月23日に開始した冬休みも新年12日で終わり、町内佐藤下宿さんにお世話になっていた第1陣6名が帰ってきた。うれしい事に、その中に年末に全国規模の学習塾の採用試験を受けていた若者が、見事に合格し、ビバを卒業していった。彼は都内の有名私立大学を卒業し、ある官庁に勤務したが、職場の人間関係に悩み退職し、ビバに来たのだった。

昨年末の冬休み前で、関西地元の高校に再度挑戦するもの、夏の厳しい農家の仕事を見事に勤め上げ、一区切りのため関西の実家に帰った女性、仁木町の老人福祉施設で就労体験を終えた名古屋の若者など3名を送り出し、新年のスタートを9名の若者たちと切ることになった。

冬休みまでの若者たちの成長は目覚しく、その成果は見事にクリスマスで花を開いた。4名の「ビバ・クリスマス実行委員会」が編成され、12月21日、ビバと提携しているスコットランドのお城のような豪華ホテル「エーヴランドホテル」の大広間を借り切り、プログラムの作成から、司会進行まで全てを若者たちがやり抜いた。会場の飾りつけ、テーブルの配置から、くじ引きでの着席決めまで、約1ヶ月前からの着実な準備の成果が見事に現れていた。春からの2名の指導員による絶対にあきらめない、忍耐強い指導の賜物と感謝。

この間最もつらかった事は、昨年末に町内の岩井建設社長岩井淳一さん（78歳）を心臓病のため失った事でした。岩井社長がいてくださったので、今日のビバハウスがあるといっても良いほど、お世話になりました。緊急の事情でプレハブで建設をしなければならない事を理解し、整地から始まり、中古のプレハブを何棟も札幌の建設現場から取り寄せ、希望通りに作り上げていただきました。現在のモンガクにあるビバの農場の本体の2階建ての建物も、岩井さんから譲って頂いたものです。

いよいよこれから本格的に建設予定の、「年寄り・若者元気村」の構想の拠点になる、大型の「建設準備棟」もほとんどボランティアで1昨年建てて頂き、今後本格的な各施設の建設をお願いしようとしていただけに、ビバハウスにとってもこれ以上のショックはありません。なんとしても岩井さんと共に抱いた「夢」の実現のため全力を尽くすのみです。今はただ心よりのご冥福を祈らせていただきます。合掌。